

品川区保護司会
荏原東分区

ハローインフォメーション

第 32 号

発行者 品川区保護司会荏原東分区
分区長 太田 明

令和元年を顧みて

荏原東分区長 太田 明

平成 18 年以降、12 年ぶりの分区長へのカンバックです。平成 31 年は、5 月より年号が令和となり、新しい時代の幕開けとして、国中が明るく平和で大きな期待を持って迎えました。そして、新天皇が即位され、令和 2 年(2020)は、待ちに待った東京オリンピックの開催です。ところが、中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、中国を中心に世界へ感染は拡大し、感染者は 20 万人を超えました。日本でも多くの感染者が発生し、3 月から小中高、全校臨時休校となり、多くの人が集まるスポーツ競技やイベントなど無観客という異例な状態で開催されました。そして、感染防止のために、会社でもテレワークの導入、公共の施設の休館、小さな会合の中止、経済的にも大変な影響ができています。現在、何一つ確実なものは見えてきませんが、できることをやって行くことがベストなのかもしれません。一日も早く終息することを願うばかりです。

今年度は、皆様のご協力のもと予定した事業を実施することができ、感謝しています。第 68 回の社会を明るくする運動、東西分区合同の横浜刑務所、そして、東分区の静岡刑務所の参観など、また、品川区保護司会にとりましても念願の更生保護サポートセンターが開所し、ようやく他の保護司会と肩を並べることができました。品川区のご支援に対して厚くお礼を申し上げたいと思います。保護司本来の活動はもとより、本年度は各活動に対して多くの保護司の皆さんが積極的にご参加頂き取り組んで下さったこと、例年になく充実した 1 年であったと思います。担当の各部長さんをはじめとして、皆さんにお礼申し上げます。来年度に向けては、各保護司の皆さんがより積極的な活動に取り組み、70 回目の社会を明るくする運動の新たな展開、そして、新人保護司候補者の確保に力を注いでいただきたいと思います。



定期総会

平成から令和へ

総務部長 井上 耕一

2019年、平成から令和に年号も変わり慌ただしい一年になりました。

本区では、3月26日(火)初めての映画会「君の笑顔に会いたくて」を開催し、準備段階からかかわり好評のうち終わることが出来ました。

3月1日(金)更生保護サポートセンターが、区役所6階地域活動部の倉庫を間借りして開所し、7月17日(水)現在地にて開所式が行われました。濱野区長をはじめ地域活動部部課長、東京保護観察所、第三ブロック各会長等にご出席いただき、待望のサポートセンターが開設されましたことは、今後の保護司活動の拠点になると期待をしています。

10月28日(月)第三ブロック保護司組織運営協議会が開催されました。テーマは、「東京の保護司活動の今、そして、これから～東京の更生保護を守り抜くために～」各区保護司会も同様な問題点を抱え試行錯誤している様子が覗えました。

このように本区活動に関わりを持ち、その情報を的確に分区の皆様へ伝えることで共通の認識をもつことが大事だと痛感しています。

総務として他分区の方々に関わりをもつことも重要なことだと思います。仕事をしながら時間をやりくりして、活動していくことは、大変なことですが、誰かがやらなくては、分区は成り立たなくなります。これから、経験値の高い先輩方が定年されていくことで今後の分区がどのようなになるのかが大変気がかりです。

保護司活動を通していろいろな関わりができ、知らない世界を知ることが出来たことで対象者との関わり方も変わるような気がします。

まだまだこれからだと思っています。

目まぐるしい一年でしたが、大変貴重な一年でもありました。今後とも皆様のご協力のもとに分区の活動に関わっていこうと思います。



更生保護サポートセンター

荏原東分区 2019 年度研修部より

研修部長 伊藤 雅志

今年度の荏原東分区の研修部事業は以下の通りです。

- ・ 6月25日自主研修「ひがし会」荏原第五区民集会所
退任された野田律子様をお迎えし事例研修としてご苦労されたお話や思いで話をお伺いしました。保護司13名参加
- ・ 11月19日荏原東西分区日帰り矯正施設見学「横浜刑務所」
東分区保護司12名、西分区保護司9名、荏原保護観察協会5名、民生委員3名参加
- ・ 令和2年1月18日荏原東分区自主研修「ひがし会」荏原第五区民集会所
映画鑑賞「しゃぼん玉」東分区保護司9名、西分区保護司6名参加
- ・ 令和2年2月6・7日荏原東分区矯正施設宿泊研修「静岡刑務所」焼津『松風閣』宿泊
東分区保護司9名、荏原保護観察協会4名、更生保護女性会2名参加

ひがし会は、年3回を目標にしていたのですが2回となってしまいました。毎回研修内容を何にして良いかわからず悩んでおります。

矯正施設見学は、今年度は、東西合同研修の年となっており東分区が当番幹事でした。東西合同定例会にてご意見をお伺いし日帰り研修としました。このため東分区の年1回の宿泊研修が未実施となるため2月に宿泊研修を実施しました。

施設見学は、本区・東西合同・東分区と回数も多く経験年数の長い保護司の皆さんは、行った所が多く選択に悩みます。また、東西合同については、今後のあり方についていろいろな意見をお伺いすることがあり必要性も含め熟議いただきたいと思っております。

皆様にご協力いただき何とか2019年度の研修を終えることが出来ました。ありがとうございました。



横浜刑務所



定例会



横浜刑務所



静岡刑務所



地域別特別定例研修



社会を明るくする運動



定期総会後の懇親会



薬物乱用防止キャンペーン



とごし公園カップ

静岡刑務所参観・研修に参加して

荏原保護観察協会 浦 功

静岡刑務所参観・研修は二度目で、最初は2006年2月品川区保護司会での参観・研修でした。宿泊場所も焼津温泉「松風閣」でした。奇しくも全く一緒でした。

さて、私は戸越からバスに乗車し、研修旅行が始まりました。天候に恵まれ、バスの車窓から眺める富士山の姿、また日本平から眺める富士山の姿は、白雪に覆われて輝く姿は素晴らしく感動しました。やはり日本人は富士山ですよ。私は富士山を眺めることを楽しみにしていたので満足しました。

静岡刑務所では、自分が保護司時代に担当した対象者を思い出しながらお話を聞いておりました。刑務作業場も案内していただき、研修の意義が深まりました。給食は一日三食で486円/人、収容者数も一時に比べ半減しているとのこと、収容年数も刑期2～4年で約53%、最高齢は82才、犯罪の種別では窃盗・覚醒剤・詐欺で46%、木工場・印刷工場が看板工場とのことでした。

宿は焼津温泉「松風閣」。今回は最上階の10階のお部屋でした。眼下に広がる太平洋の海原を窓越しに一望、大いに満喫しました。温泉に入り、研修も終わり、旅行の大きな催しである皆様との宴会・カラオケ・フラダンスを楽しませていただきました。

二日目は、宿の皆さんの見送りを受けて出発。先ず、「焼津さかなセンター」に到着。少人数での一番乗りだったので、何だか店側と噛み合わずに私は試食しただけでした。

つぎに、蓬莱橋[全長897.4m、通行幅2.4mの木造歩道橋、平成9年12月に世界一の長さの木造歩道橋としてギネス社に認定]です。私は半分程で引きかえしてしまいました。一度は乗りたかった大井川鐵道SL急行「かわね路1号」に「新金谷」から乗車して、車中で名物駅弁の大井川ふるさと弁当をおいしく食べながら「千頭」まで、さらに南アルプスあふとライントロッコに乗りかえて、「閑蔵」にて下車。その間大井川を車窓から右に左に見ながら、川の美しい流れと蛇行、川にかかる吊り橋、人影の全くない駅ホーム、奥大井湖上駅のあるレインボーブリッジ、スリル満点の川底からの高さ71mの関の沢鉄橋を通過、長さの短いトンネルですが、閑蔵駅に着く直前のトンネル入口に40、41、42と白く番号が記されていたので、それが新金谷駅から順番表記されていたのではないかと勝手に考えました。閑蔵から迎えのバスにて、右に左に蛇行しながら、きれいに整えられた茶畑を眺め大井川を下り、帰路に着きました。

今回の施設参観・研修旅行にお誘いいただき、皆様とご一緒させていただき、勉強になり楽しませていただきました。記念写真も多数撮っていただき誠にありがとうございました。またお誘いいただくと幸いです。

荏原東分区のますますのご発展と、分区の皆様方にはお身体に気をつけられて、ご活躍されますことを祈念いたします。

静岡刑務所参観研修に参加されたみなさまからの声

☆ 今回、参加させていただきまして大変勉強になりました。看守の方がハンガリーの日本大使館に赴任されていたという話が一番興味が湧きました。約4年間という期間ですが、勉強になったという事でした。

荏原保護観察協会会員 谷 正敏

☆ いつもいつも大変楽しく参加させていただいています。(刑務所の刑務官の案内する人の緊張感がちがう。)

荏原保護観察協会会員 高野 陽一

☆ 静岡刑務所は26才以上の犯罪傾向の進んでいない人を収容する施設という事ですが、刑務作業の状況が畳の上での作業という人もいて、犯罪を犯した人の高齢化が、これ以上進まないよう、再犯防止がますます重要な事と改めて思いました。

荏原保護観察協会会員 松澤 麗子

☆ 静岡刑務所はとても広く明るい感じで、木工作業場などはとても人が少なく一般の工場の様で畳の部屋は高齢の方が多く、前回の見学も同じ様で職員の方のご苦労がしのばれました。中々見学する事の出来ない所をつれて来ていただいてありがとうございました。旅行も大変盛りだくさんでホテルもいろいろなスケジュールも皆様もご親切で本当にありがとうございました。

品川区更生保護女性会 大金 貞子

☆ とても広々とした環境の中、刑務を終るまでのカリキュラムが充実していて、高齢者にとってもやさしい事素晴らしいです。又、皆様と楽しく過ごし、有難うございました。

品川区更生保護女性会 渡邊 芳枝



電話でつながるこころの居場所

会計部長 上村 きみ子

保護司の皆様は保護司の他にも多岐に亘るボランティアをなさっています。私も力不足ではありますが町会役員・民生委員そして18歳までのこどもがかけてくる電話の受け手をしています。その「しながわチャイルドライン」について述べさせていただきます。

7年前、品川区更生保護女性会の研修として昭和大学病院内にある院内学級の副島賢和先生の講演会に参加しました。副島先生は子ども達の緊張を和らげるために病院内ではいつも赤鼻をつけて子ども達と接しています。ホスピタルクラウンとしても有名な先生です。入院している子ども達との様々なエピソードにはハンカチが何枚あっても足りないくらい涙しました。

その講演会を主催していたのが「しながわチャイルドライン」でした。講演会は予定より30分遅れました。プロジェクターが故障し部品を買いに走らなければならなかったからです。副島先生を始め100人ほどの参加者を長く待たせるわけですから、私だったらアタフタと動揺するばかりでしょう。でもチャイルドラインのメンバーはドタバタ、カリカリせず、でも『申し訳ない』という気持ちが静かに伝わってくるのです。その温かい雰囲気には私はなんと素晴らしいグループだろうと興味が湧きました。講演後、しながわチャイルドライン受け手養成研修のお知らせが配られました。グループの雰囲気に惹かれていた私はすぐに申し込みました。その研修では子どもの置かれている現状、子どもの話を聞くということを12回学びました。受け手となってからも、常に継続研修を受けています。

チャイルドラインは子ども達が安心して電話がかけられるように4つの約束を掲げています。

- ・ヒミツはまもるよ
- ・どんなことも、いっしょに考える
- ・名まえは言わなくていい
- ・切りたいときには切っていい

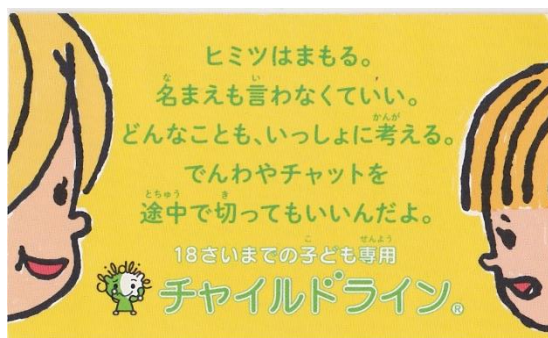
18歳までの子どもを対象に電話で話を聴き心に寄り添う活動です。

受け手はお説教や指示命令はしません。子どもは話を聴いてもらえた、受け止めてもらえたと感じる事が出来れば、自分と課題に向き合い乗り越えていく力を持っています。子どもの『ことば』の奥にある「こころ」に寄り添えたらと活動しています。仲間としては大学生、主婦、勤め人、そして私のようなシニアと様々です。子ども達は北海道から沖縄まで全国からかけてきます。電話代はかかりません。

話の内容は他愛もない日常の出来事のおしゃべり、筆舌には尽くしがたい想像を絶する内容、作り話、いたずら等々あります。どのような内容でも心を込めて聴き続けます。受け手の中にはあまりにも酷い現実と向き合い心が傷ついて辞めていく方もいます。全くの手

弁当のボランティアですが、どんどん活動の時間を増やし続けていく「しながわチャイルドライン」に、私は社会勉強させていただけることを感謝しております。

品川区内の小中学校生・高校生全員に配られています。



追 憶

副分区長 高村 幸弘

中学校を卒業し、小学校時代お世話になった恩師の所へ伺った時の出来事を少し触れたいと思います。

当時、恩師は小学校の教師を辞めて、教護院（現在の児童自立支援施設）の先生になっており、併設された学校での教師をしながら入院している児童が生活を送る寮の管理を行う寮長になっていました。

私はその寮に1週間滞在する事になりました。2日目のことです。寮生の一人が盲腸炎になり、私は1人分の食事が無駄になるので、他の寮生全員と一緒に夕食を取る事になりました。彼らは、自分の好きな食べ物から、とても早く食べるのにビックリしました。すると、私の隣にいた少年が「君が好きな物から先に食べた方が良いよ」と、そっと囁いてくれました。その内に、食事をしながら心が通じ合い全員と話を交わす事になり、境遇や、この施設に入る事になった事情、心情を色々聞く事ができました。

その時は、同世代の少年達がなぜ不良行為や、触法行為を行ったのか、正しい理解はできませんでしたが、1人の人間として生きて行く生活力の強さを感じた事を思い出します。その強さを正しい方向に向けて行ければ幸せな日々を送れるなと思いました。

私は、保護司として、この出来事が原点にあります。

新時代を迎えて

区保護司会副会長 松澤 利行

新しい時代、令和の御代が始まりました。品川区では、保護司会の不断の努力が実り、更生保護サポートセンターが開設されました。保護司会、更生保護女性会、BBS会、桐友会、の四団体が使用出来ますが、運営は保護司会が責任を持って行います。保護司の活動がやり易くなるものと期待しております。

さて、私は昨年9月再任通知をいただきました。いま74才なので残り任期はあと2年、悔いのないように、しっかりと保護司の活動を行っていきたいと思っております。品川区内では、犯罪、少年非行が減りつつありますが、再犯や再非行が減らず、社会問題化しております。保護司活動も地域との連携 一絆を深め、再犯防止 誰もが安心安全にらせる品川区を目指して頑張るまいりたいと思っております。保護司会の充足率を高め、更生保護が更に充実して行なえるように、残りの任期を頑張りたいと思いません。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

保護司として

監事 栗田 恵造

平成15年太田さんの推薦により保護司を拝命いたしました。同期には田中さんと退任された浦さんがいました。以来、10数名の対象者と接してきました。中学生から40代まで年齢もさまざまでしたが、どういう理由かほとんどが性犯罪がらみの初犯の人達でした。一部の者は再犯を犯しがっかりしましたが立ち直り、なかにはいまだにメールをしてくる者や私の誕生日（対象者が私と同じ誕生日）に近況報告と私の健康を気づかうメールをくれる者もいます。私の保護司の心がまえのなかには、かつて私が使っていた少年達（10数名中7人が保護観察の経験があったそうです）からのアドバイスもあります。保護司拝命以前からなにか縁があったのだと思います。今、分区内を見回すと私より後から拝命された方が多くなっています。今までの経験と先輩方からご指導いただいたことをお伝えしていかなければと思っておりますが、未だに現役で現場に出て仕事をしておりますので本区、分区の活動になかなか参加することができませんが、これからもよろしくお願ひ致します。

戸越公園商店街ハロウィンイベントにおける広報活動

地域活動副部長 原 健治

令和元年 10 月 30 日（水）夕刻、戸越公園商店街ハロウィンイベントが行われました。これはハロウィンの時期に、戸越公園駅を中心として南北に広がる四つの商店街（宮前、中央、南口、ゆたか）が連合で開催しているもので、仮装した子どもたちは、それぞれの店からお菓子をもらって商店街を練り歩くなど、毎年大変な盛り上がりを見せています。今年も参加した子どもたちからの「トリック・オア・トリート！」の元気な声が響き渡り、笑顔も飛び交ってとても活気に満ちたイベントになりました。もはや、ハロウィンイベントは、商店街からすると最高の集客を誇る年間の最大イベントとなっているようです。

そんな中、私たち保護司は「社会を明るくする運動」を PR するため参加した親子やイベントに集まった人たちにポケットティッシュを配りました。1000 人は集まったのではないかと思えるほどの賑わいに用意したポケットティッシュはあっという間に底をつき、「社会を明るくする運動」は、たくさんの人の目に留まったと思います。また、参加した親子はもらったお菓子を食べて歩いていたため「手をふくのには有難い」という理由からポケットティッシュが重宝され、思わぬ反響もありました。

このように「社会を明るくする運動」は、地域コミュニティに浸透していくといった意義を見出していくためにも、こういったイベントなどを通じて地道な啓発活動を続けていくことが必要ではないかと改めて感じました。



戸越公園駅前南口商店街



編集後記

世界中がコロナウィルスの感染拡大防止の自粛ムードの中、少しでも明るい話題をお届けしようと広報部員一同、英知を結集して発行に力を注いでまいりました。ご多用にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただいた皆様には、深く感謝申し上げます。このハローインフォメーションを手にとっていただき、私たち保護司の地域に根差す活動を多くの方に知っていただければ幸いです。

令和2年3月吉日

広報部 中村 國雄
中川 治子
沖山 弘隆
原 健治